

令和 7 年 7 月 12 日 開催

聴く・ミーティング報告書

テーマ 「思い込みのメガネ」をはずしてみよう
～ジェンダーの視点から未来の杉並を考える～

区では、区政への区民参加の仕組みづくりを進めています。その取組の一つとして、身近な行政課題について、区長と区民が直接意見を交換する「聴く・ミーティング」を開催しています。

令和 7 年 7 月 12 日は、「思い込みのメガネ」をはずしてみよう～ジェンダーの視点から未来の杉並を考える～をテーマに、一般公募と無作為抽出した 2000 名の区民の中から参加していただいた 35 名の方と話し合いました。

区長から

無意識のうちに生じる思い込みや偏見から生じる地域の課題を、ジェンダー(社会的・文化的につくられた性差)の視点から不断に問い直していくことは、誰もがより暮らしやすいまちになるために不可欠です。例えば、「育児休業は女性がとるもの」という思い込みは性差からくる固定的な役割の代表的なものです。近年、制度の整備や意識の変化から、男性の育児休業の取得率が大幅に伸び役割の固定化は改善されつつあります。一方で、区の男女共同参画に関する実態調査では、「男性の方が優遇されていると感じる」との回答が 78%と、まだまだ男性優位の社会が指摘されています。ジェンダー平等や性差からくる固定的な役割の解消には、制度や文化・慣習などが関係しており、時間がかかるとは思いますが、性別に関係なく誰もが平等に権利や機会を享受できる社会になるために、今できることは何か、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



担当課からの説明



1 「無意識の思い込み」は考え方や物事の捉え方のメガネ

アンコンシャス・バイアスとも言われる無意識の思い込みは、その人の考え方や物事の捉え方を表す価値観のメガネと言われています。そのメガネは、自分に見えているものこそが、世界であると思わせます。例えば以下のようなことが起こります。

- メガネの度数が違う→人によって、同じものが違って見える。
- レンズに色が付いている→ものが見えにくくなる。
- 度数があっていない→ものを正しく認識できない。



2 「ジェンダー」とは「社会的・文化的に構築された性別」

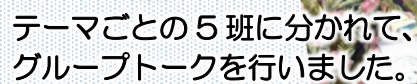
国の統計では、総合職で採用されるのは男性の割合が高く、その結果として、昇進や給与に男女で差が生じているという例があるほか、理系が得意なのは男性、文系が得意なのは女性という無意識の思い込みにより、高校・大学の進路に影響が出ていることもあります。このように、性別を理由に役割を押し付けたり、向き不向きを決めつけたりする考え方を「固定的な性別役割分担意識」と言います。

「無意識の思い込み」が、私たちの意識にどのような影響を与えているのかを考え、気づきを得ていくことが本日のゴールです。

3 誰もが住みやすい地域になるために

無意識の思い込みが私たちの中にどのように潜んでいて、そのために地域の中で、「自分が」、「誰かが」困っていたり、悩んでいることはないか、その解消のために何ができるかを、今日は5つのテーマをグループごとに考えます。「無意識に気づくこと」を通じて、自分が変わり、周りの人にも波及していくことで、みんなが住みやすいまちに近づけるのではないのでしょうか。

今日は、「無意識の思い込みによって生じたジェンダー視点の問題が解消した姿」について、意見を交わしていきたいと思います。



全体トークでは半円状の車座になり、参加者が一人ずつ自分の意見を発表した後、フリートークを行いました。

社会化の中で育ち
るジェンダー観
家庭・学校・地域
多面的に取り組む

アイデアではないが

- その人の考え方、感じ方を知らないと
聞くことが大事。
共感するべきなのも否定しない。
- できる人、やり手い人があれば
良い。男女の役割制ではなく。
○何よりも利便性(用いてもいなくても解決できる)が大事。
→ 便利さ、アイデア

自由に自分らしさを
表現出来る。
年代による視点(加齢)は
あります!!

「要配慮の方」に優しい
施策はみんなに
とても優しい
⇒ 多様な視点を

思い込みのメカネの
例えに 感心しました。
老眼も 超えて
心の眼を開きたいです。

皆がアイデアを行政に
伝えよう。行政も分かり
やすく住民に説明をし
よう。

ジェンダーギャップを
超克した社会とは？
ロールモデルが「必要」---。
(どこにあるだろう)

雇用と云われる仕事は
 皆の思いやりがなければ
 解決できないのでは
 一人の意識の持ち方次第か？

藤くづ坊・ミーディング

その優しさ
優しさではない？

人はそれを水道、当たり前前
人の価値観は変えられる
行動ルールは変えられる

- * その人の「思想性」は 変化する。
対する用意がある人は 合則者なり。
- * 「思想性」の要因は 信仰 がある。い
う言へば 社会

情報・状況
の共有

他者を守るために「知る」意味、これは重要

- ・ 登壇時は書版自分で対応させているセルフアワーが
できなくなったり、(月曜や金曜の限用など)、紙版群の
発生もありえる
- ・ 周りの人を助ける、守るために知識をつける

第2回 オフ・ミーティング

どんなにがんばっても
「無意識の思い込み」をゼロにはできない。
でも、ゼロに近づけようとする
心構えは日々持ち続けていきたい。

第2回 オフ・ミーティング

ジエグバードイアスは、各個人の意識を
てはやく、社会全体で少しアツ
変えていかなければならない。
根の深い問題である。怒いた。
また、古いバグズがゆとり利益
あるアツバグズがゆとり利益、
結果するまであると怒いた。

よくアツ、ミナアツ



ジューダー に関係無く
「弱い立場」に自認してワザと
皆で共有できる
「やしいもの」が出来る。

子供は親の見方を
マネして育つから。
家庭が変わらないと。
→どうする？

こどもに「ジェンダーバイアス」「女の子は
かわいく」とちたてくれないと思っ
ていました。(いじめがひどいから「女の子はこ
わいにく」が流行ったから?)
グループで話し、他がわからず、子ども
自身に「あなたに思う」「かわいいうちは
みんなのめ」と尋ね、子どもの思いを
きいてみてはどうかと話しをもちました。
私は子どもをききあえたと思いましたが、

ケアが必要な人を
ベースに考えることが
みんなのためになる

自分には「配慮」がいる。つもり、でも、
本人のやりたいことを、くじいている
かも…。相手を尊重して会話を
し、知識を得ることを
大事にしたい。

読むオフ・モチエィング

・女性と仕事について想像以上に
積極・出展的・厳格だった。
・男が子育て・地域社会で
寄与するに任せておけ



違う価値感を持つ他者は
愛あるべき と思ひこんでいいか？
皆が 違いを認め合い受けとめること
子ども達がい

「ここで子育てしたい!」
と思える杉並であって欲しい!

予有て介護等てお世に偏りがあつてを
改めて実情事として皆うから脱ぐとこか
でまけた。...どうも人達か..
これから当面前かと思ふ「普通」感もあえて
意識するとか解決に繋がないか?
と思つて可。
(C)

性別にとらわれずに
好きなことを好きだと
自信を持って言える社会に

背景: 价值观 & 人 & 文化, 文化, 男 & 女 & 性别 & 文化, 年龄 & 代, 属性 & 差异 & 文化, 社会 & 环境 & 文化!

近年, 组织 & 会议 & 沟通 & 文化 & 组织 & 制度 & 设计 & 文化.

普通

知る、共有する

- ・ インターセクショナルティ
多岐に、様々な
- ・ 自分の視点で見ていくか、または
男性の性観望やDV
F+M

ようやく、
「無意識の鬼」を
声に出せる 時代になった。

注意線の内辺外、利込外の方には
家庭環境が与えられたり、家庭教育の
方針と本人との相性！

バイアス
との
つなひき

まずは ジェネシーについての
解像度・理解を深める
その方に きっと
あたりまえと
とらえている様になる

君の方は人それぞれ
 皆「見えないものがある」と自覚
 見えないものが全てではない
 「異」添い」「交流」「知り合い」
 カレワ カレワ

父^的役割 母^的役割
(男性) (女性) 本能的に
スガッパ
に!!
を固定化しない!!
~~毎~~親のシンゲル
将来の子供たちの生き方・心につながる。

ハイアスを解釈するのは
「対話」だと思う。
理解できない他者への恐怖
が「対話」を阻むか。
それを超える「対話のレトリック」
を私は土岐に学ばせたい。

わかりあえない
ことから
伝えあえる
ように

男女共同参画担当から



皆さんのディスカッションに参加させていただき、とてもいい経験になりました。本日のテーマは「無意識の思い込み」について考える、つまり自分が気づいていないことに気づく、というとても難しいものでしたが活発にお話し合いをしていただきました。その中で「尊重する」「認める」「思いやる」「一番困っている方に思いをはせる」など相手を思いやるキーワードがたくさん出たことが印象に残りました。

私たちの部署はジェンダー平等を実現する、という大きなミッションを背負っています。社会を変えるというのはとても大きなことのように思えますが、皆さんが指摘するように相手を思いやる気持ちや行動が普段の生活にあって、その積み重ねが、点が繋がるような形で社会を変えていくのではないのでしょうか。一人ひとりの行動が社会を変えジェンダー平等社会が実現する、というメッセージを受け止めて、今後もジェンダー平等の意識啓発や理解に取り組んでまいります。

区長の感想

今日の参加者の中には、ジェンダーに関するバイアスで傷ついた経験のある方もいると思います。そのような経験をもとにジェンダーについて語る時、とすると、議論は背景にある社会への批判になりがちです。しかしながら、皆さんは、自分事として無意識の思い込みに気づくことや、ジェンダーバイアスをなくすための方策まで検討していただき、課題に取り組む姿勢が素晴らしいと感じました。

全体トークでは、「ジェンダー平等を考えることは、それにとどまらず性差にとらわれずにありのままに生きられる社会づくりに繋がる」という指摘や、「思い込みをなくすには多様性を理解することであり、そのためにはみんなで対話を続けていくことが大事」との意見をいただきました。私は、自治体の役割は一人ひとりの尊厳を守り、幸せな社会をつくることだと思っています。ジェンダー平等の推進は、そのための重要なファクターだと考えています。今年度設置した「ジェンダー平等に関する審議会」に今日いただいた意見を伝えるとともに、杉並のジェンダー平等の未来像を皆さんにフィードバックできるよう頑張ってまいります。



令和7年7月12日開催 聴くオフ・ミーティング報告書

＜参加者＞ 区民35名、区長、男女共同参画担当課長ほか



令和7年8月 編集・発行 総務部区政相談課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111